

## 店頭回収の現状

### リサイクルボックスでの回収実績

2013年度のリサイクルボックス回収実績は、4種類とも前年を上回りました。これは、リサイクルボックス設置店舗を増やしたことで、お客様の資源再生に対する理解向上の成果と考えられます。特にペットボトルの回収量増加が顕著です。これは自治体回収や集団回収では常に回収していないため、いつでも持って来られる店頭回収の利便性の高さが回収率に繋がったといえます。店頭回収は作業的には大変ですが、お客様と一緒に循環型社会を構築することができ、環境貢献として大切なことと考えております。

リサイクルボックスでの店頭回収量

	アルミ缶	牛乳パック	発泡トレイ	ペットボトル	店舗総合計
回収店舗数	193店舗	220店舗	220店舗	193店舗	—
回収店舗	87.7%	100.0%	100.0%	87.7%	—
全社合計 (43期)	596,767kg	581,646kg	291,509kg	2,146,522kg	3,616,444kg
全社合計 (42期)	555,683kg	575,332kg	291,151kg	1,865,920kg	3,288,086kg
前年比	107.4%	101.1%	100.1%	115.0%	110.0%

## ③ サステナブル (持続可能な) 原料を使った容器包装への取り組み

### バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料のほとんどは石油です。石油など化石資源は地球に残された量に限りがあり、近い将来には枯渇してしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また化石資源である石油は産出する時や廃棄処分する時にもCO<sub>2</sub>を排出し、地球温暖化の原因になるといわれています。

こうしたことを考えて、ユニーでは2006年から植物を原料としたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により大気中からCO<sub>2</sub>を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サステナブル (持続可能な) 原料です。

#### バイオマスプラスチックの特徴

バイオマスプラスチックは石油由来のプラスチックと異なる特徴があります。

- 1 植物が原料なので、石油資源が節約できます。
- 2 植物は地球上のCO<sub>2</sub>を吸収するので、焼却処分してもCO<sub>2</sub>を増やしません。
- 3 ポリ乳酸のような生分解性のもは、生ゴミなどの堆肥に入ると、熱と水分で水とCO<sub>2</sub>に分解し廃棄物になりません。
- 4 使用済みバイオマスプラスチック製容器は、回収しリサイクルしています。



バイオスマーク

動植物を原料としたプラスチック  
使用後は水と二酸化炭素に分解され、  
自然に還ります。

### バイオマスプラスチック (ポリ乳酸) 製容器包装

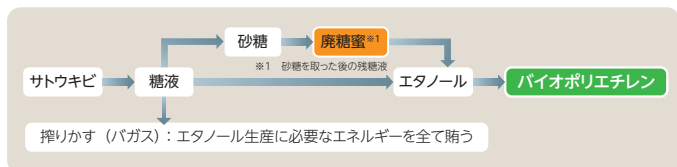
ユニーではサステナブル (持続可能) な資源であり、CO<sub>2</sub>を増やさないことから、2006年より卵ケース (きらら紅) と青果売場で透明ケースやカットフルーツカップにバイオマスプラスチック (ポリ乳酸) を使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



### バイオマスプラスチック (バイオポリエチレン) 製容器包装

#### 植物性のバイオポリエチレン

ポリ乳酸製の容器に続き2012年から、サトウキビの廃材を利用したバイオポリエチレンを、容器包装 (液体洗剤や柔軟剤の容器・レジ袋) に使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、植物性なので大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し、また繰り返し栽培できるので、サステナブル (持続可能な) 原料です。



#### レジ袋にバイオマスプラスチックを使用

2012年6月から、ユニーのレジ袋無料配布を中止している店舗で販売する有料レジ袋を、バイオポリエチレン25%含有製品に代えました。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは、石油由来100%のレジ袋に比べ、サトウキビの生産～ポリエチレン原料製造工程～レジ袋製造～輸送～焼却処分までのCO<sub>2</sub>を17%削減します。ユニーとしてはCO<sub>2</sub>を年間262,231kg削減します。(試算：福助工業)

